

がん予防講演会

がんを予防する

・・・アルコールの視点から

日時：2019年2月13日（水）
18:00～19:00

会場：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
Kタワー13階ホライゾンホール

講師

愛知県がんセンター研究所がん予防研究分野
分野長 松尾恵太郎先生

対象

亀田総合病院及び近隣医療機関
医師・看護師及び医療従事者

アルコール飲料の摂取は有史以来の人間の代表的な生活習慣の一つである。アルコールの健康影響に対する多くの疫学研究が実施され、その中の多くががんに関するものである。その結果、現在アルコール飲料は世界保健機関の下部機関である国際がん研究機関がGroup 1の発癌物質と指定するまでに至っている。食道がん、頭頸部がん、乳がん、大腸がん、肝臓がんがアルコール関連がんとして特定されている。我々の研究グループはいくつかのがん種において、アルコール代謝関連酵素の遺伝子配列の個人差とアルコール摂取量との間に、組合わせ効果、いわゆる遺伝子環境要因相互作用が存在する事を明らかにしてきた。また、これまでアルコール関連がんとされていなかった胃がんにも同様の遺伝子環境要因相互作用が存在する事を明らかにしている。本発表では、アルコール摂取と発がんに関して遺伝的な側面を加えた最新の情報を提供する。

問合せ：亀田総合病院 がん拠点病院推進センター 大橋・黒川・唐鎌
TEL/04-7099-1230 (7155) FAX/04-7099-1231 (7159)